

# 3年後には仲間たちと

## コミュニティレストランを開きたい

さいたま市精神障害者家族会 もくせい会(埼玉県さいたま市)

埼玉県南浦和のマンションの2Kの一室。エプロン姿の男女が同市内にある食生活改善グループのメンバーの指導を受けながらクッキー作りの真っ最中だ。作っているのはいずれも心に障害をかかえている若者たちだ。言葉がはずみ、笑顔がこぼれる。女性の一人に「料理は好き?」と聞いてみると、「すごく楽しい。得意な料理はカルボ



自分たちがつくった料理を食べながらボランティアの人たちと談笑する障害者たち(写真上)。今回は初めてのクッキー作りに挑戦(写真下)



ナーとハンバーグ。作って食べさせてあげたい」と元氣な返事が返ってきた。彼らには数年後に自分たちのレストランを開くという大きな夢がある。「精神障害者には自分の中に『社会に偏見があると思ひ込む偏見』があるんです。それを取り去るには内にこもって何か作業するのではなく、障害者もそうでない人も自分のできる範囲の仕事をし、さまざまな人が出入りするコミュニティレストラン(コミレス)のようなものをつくって、そこで障害者がごく普通に社会に溶け込んでいくことが必要だと思つてですね」と語るの



「コミレス開店を早く実現したい」と語る飯塚寿美さん

はこの「ラウンジ南浦和」の運営責任者・飯塚寿美さんである。

飯塚さんはさいたま市精神障害者家族会「もくせい会」の会長として、この地区では開かれたかたちの作業施設がないことからコミレスの事業展開を計画。幸いにも飯塚さんたちの活動に賛同してくれたマンションのオーナーが無料で場所を提供してくれた。現在マンションの2階にあるラウンジ南浦和は週5日、精神障害者たちがゆっくりつるがる場所として開放されており、利用登録者は20代、30代の17人ほど。常時5、6人が集まり、参加者の

希望によってケーキ作りや料理の実習を行ったりしている。また同じマンションの1階にあるレストランを営業時間外に借りて月1回「ふれあいコンサート」を企画。これは、障害者の施設をつくるうとすると、とがく地域の反対にあつ場合が多く、その前に精神障害者への理解を深めてもらうため。ハーパーの合奏やフォークギターの演奏会などすでに4回開催。いずれも40〜50人が集まり、満員の盛況だった。

ボランティアは主としてもくせい会が主催する養成講座を受けた人たちが受け持ってくれているが、「精神障害の子どもを持つた父母が見学に来て、ああこんなふうになれるんだつたらとお手伝いを申し出てくれる人もあります」。

3年後には開店にこぎつけたら、飯塚さんはラウンジの仲間たちに温かい眼差しを送る。

### ファイザープログラム

「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」

### 2001年度 募集要項

1. 募集期間: 2001年7月2日~8月13日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2002年1月1日~12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
  - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動  
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
  - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身の保健・医療を支援する活動  
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
  - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動  
身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:  
ファイザー製薬株式会社 企業文化室  
03-3344-7524  
応募要項はホームページ  
<http://www.pfizer.co.jp> からダウンロードできます